WASON
HQ
1104
J74

no. 277

女學雜誌

第二百七十七號
明治二十四年八月八日發兌

衣裳　蓮峯外史
一妓樓主人廢業の顛末
雨の日ぐらし評
女學雜誌總目錄
小公子と婚姻論
竹越君著新日本史の評
家政　山下石翁

下六番町六番地
女學雜誌社

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 277　AUGUST, 8TH.　1891.

第二百七十七號目次

EDITORIAL :—On Marriage.

CHILDREN'S COLUMN :—"Little Lord Fauntleroy." (A Translation.).

MISCELLANEOUS :—The Wardrobe. "The Song of the Moon." (A Poem.) How a Man Came to Do Away with his Shameful Profession.

THOUGHTS AND FANCIES :—Human Will.

THE HOUSEHOLD :—Having too Much is not having Enough. Duties of the Day. Do not Count upon your Profit before you Gain it. A useful Kind of Pickles. What a Lady Announces to her new Servant-Girl.

CRITICAL NOTES.

NOVEL.

NOTES AND NEWS.

CONCERNING WOMEN.

●社說　婚姻論
●兒籃　小公子（若松しづ子）
●雜錄　衣裳（蓮峯外史）○月の歌（うちだ）○一妓樓主人、其醜業を廢せし顚末（田邊覺太郎）
●隨感　人の意志（みどり）
●家政　餘るは足らざる事○一日の用事○利益を前用す可らず○冬の香の物○下女へ申渡しの事
●批評　新日本史○大日本農史○農事參考書解題○美妙齋著雨の日ぐらし
●小說　腹中の蛇（湘川漁夫）
●時事
●女報
●日本全國卒業女學生姓名一覽
●附錄　女學雜誌第十五卷總目錄

女學雜誌社出版書目

鈴木弘恭大人述	つれ〴〵草講義	一冊	價金八錢
鈴木弘恭大人述	文法口授	一冊	同十六錢
鈴木弘恭大人述	百人一首講義	一冊	同三十五錢
船越鼎太郎君著	産婦小兒攝生法	一冊	同十六錢
關輪正路君纂	ひめ鑑	一冊	同四十五錢
中島俊子著	善惡之岐	一冊	同卅五錢
横山雅男君著	婚姻論	一冊	同十六錢
島田三郎、植木枝盛兩君演說	廢娼演說	一冊	同五錢
巖本善治述	妓樓全廢	一冊	同五錢
島田三郎、巖本善治同著	公娼可滅	一冊	同五錢
農學士寺尾熊三著	植物學	一冊	同十二錢
林學生星野愼著	昆虫植物金石採集法	一冊	同十錢
明治女學校教師八木兼辰著	和書手本	四冊	同一圓
女學雜誌社編輯	演說著作材料	八冊	同四十錢
巖本善治著	鐙子小傳	一冊	同八錢

下六番町六番地
女學雜誌社

女學雜誌 第二百七十七號 明治二十四年八月八日發兌

社說

婚姻論

(六)神聖の事

婚姻は神聖の事あり。須らく大道に循がひ、万事を盡して之を鄭重にすべきものなり。天緣正に熟し、人愛温かに結び、俯仰天地に恥ぢず、衷心幾千代の睦びを確かむる所ありて、一男一女輒ち永遠の交はりを告ぐ。祝鐘いと快ちよく響き、ほめ歌堂内に淸しく、知己朋友戚親、笑まし氣に會集せる目前に於て、上帝と人とに盟ひて茲に終生の約を固む。婚姻は實に神聖の事なり。

左れど、今人の之を見ると、物品を授受するよりも輕々しく、之を合せ亦た割くとの容易きは、幼な兒が玩具を弄するに略ぼ似たり。當の男女すでに太甚しく之を重んぜざるに、内外の人亦た迫りて、一層之を忽諸かにせんとす。斯て新夫妻相合するとの平易淡泊あるは、其相離るゝとの亦た淡泊平易なるに同じ。

(七)世人無情

茲に年配佳期に中するの令孃ありとせよ。而して、父母は殊の外、緣談を大切にし、八方に委頼して十分の良緣を見出さんとを祈り、孃は多年の學窓に一個の理想を立定し、云々の丈夫あるにあらずば、寧ろ百年の身を托せずして終らんと言ふとせよ。

暫らくは此儘にして過ぎ行くべし。帶に短かきものは、襷には長く、才に發けたる者は德に足らざる所あり。恰好適當の人物は、人形店に於てすら之を得ると難きを以て、父母令孃が殊勝なる希望は、之を達せんと素より容易ならず。所々よりの申込み多からざるにあらず、左れど兎角不十分にして、談合纏まらず、何かにつけて斷はらざるを得ざるとあり。又談緒大方調ひ、所云る見合ひ、交際を了して、而してのち思はしからざると出で來、殊に孃が不得心によりて止事を得ず謝絶するとあり。斯して、一二年は瞬時に走せ去り、孃が齒ひ知らざる間に廿を越えたり。此に於てか、父母は少しく掛念し、時に額を蹙むるとなきにしもあらず。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

密かに世上の評判を聞けば、町内近邊のウハサ棄て置きがたきものあり。甲の人は、彼の家の娘、すでに廿を越て尚ほ緣談なきは、僅かの學問に心驕りて、世間の人を有か無きかの如くに思ひ、暴りに高ぶりて過分の注文を爲すによる、而して娘の我儘なるは尚ほ在がちなれど、此我儘を善きとのやうにして反つて我子を優れるが如くに思ふ親達は、愚の極みにあらずやと云ふ。乙の人は、更に此說を足らずとし、否な親の愚なるにあらず、慾の深きなり、娘の學問を好き餌となし、地位高く、財産豊かなる人に嫁せしめ、一生、娘の貢ぎによりて安樂に暮さんとす、之を以て緣談ある每に慾を長じ、漸次に心を高くしていよく\非望を望むなり、あわれ其うちに品物くだけ、何等の所得もなくして不幸を見るに至らんとは云ふ。然るに、丙、丁の人達は、更に太甚しき想像を搆へ、彼女の緣談の今に纏まらぬは、身の中に足らざる所ろあるがゆへなりと云ひ、亦は、否な、別に出來て居るものゝあればなり、親々は之を秘すれども、人は能く承知し、遂に聞込で、緣談を中止するなりと言ひ、さまぐ\に囃して、憫れむべし、純潔淸白の天女子に、汚點拭ふ可らざるの醜聲を言掛け、節を守るとの深き人に向ひて、反つて破節の惡名を與ふ。輿論風評の賴みがたきと、大率ね斯の如し。

親は之を聞て、遺恨、骨髓に徹す。我等が緣事に遲々するは之を大切よすればなり。我娘生來寸分の瑕なく、生れて三才非常の天然痘をしたれど、夫すら一點の痕を存せず、皇天幸ひに彼子を惠みて、斯計り美くしく育て玉ふものを、世人の無情なると一に何んぞ此に至るや。特に、彼子に醜名を與ふるが如きは、抑そも何等無上の慘酷ぞや、世人、希はくは彼子が理想を聞け、亦願わくは彼子が品操を見よ、甞て吾等輕々しく緣事を談ぜしとき、彼子が高潔なる思想を聞きて感佩夢の如く、親ながら、あつぱれと歎美して、我子とは思はざりけり。然るに世人輕々として此の惡評を與ふ、つれなきと幾干ぞ、蓋し世人は子を有たざるの親のみなるかと。

此に於てか、遺恨、憤懣を生じ、憤懣、暴膽を生み、此上は早々に緣を取きめ、彼此とうわさする人の鼻を赤さんとて、立腹せる商人の價を撰ばざるが如く、第一の呼客に向つて直樣、談しを取きめ、數年の苦心を一朝の泡と消し、百人の撰擇を一夕の手當り次第に任す。あゝ、嗚呼、憫れむべし、高

潔、純白の、佳人、如此して、無情癡鈍の匹夫に伴侶す。

(八) 父母不知

夫れ、父母緣事に掛念するヿ世の常ならず、娘が理想亦確固にして、尋常の浮きたる所望なき時に於てすら、世評の壓制は遂に之を縛して、到底心ならぬ婚姻に結局せしむるヿ多し。况してや、父母の用意如此く親切ならず、初めより、最と陋劣なる志を以て之を處理せんと欲するに於てをや。末期の不幸、當初既に昭々たり。

父は其妻を駕御し半生の經驗を以て確かに認たむる所ろの者あり。云く、妻もし温柔なりせば、何如なる夫にも能く和し何如なる姑舅にも能く睦むヿを得べし、斯ては、其家に不和あるヿなく、亦之より去らるゝヿもあるなし、故に、娘が緣談の善惡は、娘が心得次第によりて決するものなり。彼女若し心を温柔にせば、何如なる所に適くとも合はざるヿなし、合つて彼女に不幸なるヿあるなしと。此の故に、父は、緣談の先を、一と通りは穿鑿し、身分、身代にして、提灯と釣鐘の如くに懸隔せずば、最早格に合すと稱へ、當人が品行、性格は言ふに及ばず、其氣質、嗜好などに至りては、毛頭念慮に掛けず、惣じて此如き事件は、娘が將來に左したる關係なしと思へり。何とあれば、娘は万事悉く其夫に似、之と同化して違ふヿを覺えざるに至るべし、亦た至らざる可らずと信ずるがゆえなり。

母は、其夫に屈從し、半世の辛棒によりて、男子は無理を言ふものと勘辨し、女は之に忍ぶべきものとあきらめ、何處にゆくとも、心に適ふほどの緣談はあらず、所望念願と云ふは我儘の種にして、婦人は只だ從ふべきものと經驗したり。此故に、娘が彼此と論ろふを以て、不心得と叱り、其千々に心配するを聞きて、無用と喩し、躬からだに、万事に從はゞ、行く所ろとして、良家あらざるなしと敎え、且つ此の如く辛棒するを以て、女性の天運なりと說得す。叙むろに話し聞かせて云り、妾しが當家に來れるときは、兩親に百事をお任せ申し、一言にても我儘を口にしたる覺えなし、特に、母樣が斯くせよと仰せあらば、之に背くは、身を切らるゝよりもつらかりき、固より吾が夫を拜せしにもあらず、况して其御心根、其御人となりを知り奉りしにはあらず、家を出る時悲しかりきは、恩愛の膝下を離るゝが故なりき、大禮の席にて悲し

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

かりさは、今日より妾わ一人かと思ひしが故のみ、久しく良人の愛を得ざりしは、妾わの足らざるゆえと觀念したり、夫の外出多かりしは、妾わが家を樂しくするとを得ざりしゆえと悔みたり、遂に妾を置き玉ふに至りしは、妾わを不滿と思し玉ふゆへとあきらめたり、姑舅お二方の心に副さるとの多かりしも、天運の悪しきゆへ、一家の常に不幸多かりしも、何かの報ひならめと信仰したり。斯て御身と弟等が生れ、世の中の追々六かしくなるに連れて、妾は去られ、お二方は失せ玉ひ、年遲くして初めて夫の愛を受けたり。左れば辛棒は爲すべきものぞ、忍耐だにせば遂に安樂あらざるとなし。今ま御身が彼此と所望を言へど、そは未だ世の中を知らざるゆえのみ、天が下、何處にゆくとしても左樣の男子あるべき、男子は皆な、雄々しくして我儘なる方々のみなり。左れば、御身此上に左右を言はず、直ちに御受申して、父上の命に從がひ奉るべしと。

父は之を命ず、母は之を諭とす。泣いて、衷心を訴ふれば、そは、明治女學生の生意氣なりと叱らる。兄弟に語るに、兄弟太はだ冷やかなり。姉は、すでに古風の婚姻を爲しぬ、妹は年若くして只だ泣くときに共に泣くのみ、双つながら之を語らふに堪へず。女大學を開き見れば、腹の立つと多し。近頃の書籍を讀めば、望み村々として湧く。文字を知りてより、憂患生じ、理想固まりてより、我ながら自由ならず、心なき鄙の娘の可愛さよ。願はくは、精神を去つて、形骸とならん、形骸は、之を匹夫にも與ふべし、土中にも埋めなん。庭の虫、吟ずれど、我に和せず、木の葉落れども、敵への文來らず、竹葉空しく招けど、親しく談ずるの友あるとなし。

膝下に蹲踞し、泣きて訴たへて云く、妾わは、身分ある人を好まず、身分なき人を要む、身分は、妾わ共に働らきて之を造らんとを欲す。財産は一と通りの人を好しとす、舊家名族の遺產多きは、煩らしきに絶へず、ととに、財產多き人は、眞面目ならず、生平、勤勉ならず、妾わは寧しろ共に勞して產を造らんとを欲す、但だ其の性格氣質、品德行狀に至りては、頗ぶる擇む所ろ多し。身分、財產は、時と共に變ずれど、其人となりは、俄かに變ゆ可らず。妾わは、其人に婚せんとを欲す。其人の附屬物に歸がんとを願わずと。

母はなくもがなと嗟歎して、密かに父の容色を窺がへば、父

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

は怫然として曰く、人世の事は年少者の知る所ろにあらず、活世界の實務は、小理屈を以て辨じがたし、汝ぢは只だ父母の命に從ふべきなり、父母は汝ぢが爲めに惡を爲さずと。母に、說得の任を命じて、遽然席を起つ。

之より、前途の事、知るべきのみ。閨窓に泣くものあるとき玄關に結納を運ぶものあり。深夜寢ねがたく、坐ろに恨痛の涙にむせぶとき、切々の聲、にこやかに、新衣の數を談ずるものあり。獨り、白紙に對して、限りなきの情を寫さんとするとき、心なき下女は、意を迎へんとして媚を呈するの語ばあり。斯して、時來る。白薔薇、無情の園丁に奪はれて、片々强いて開かれ、香氣長久なへに失せたり。

歎願、受け入れられず、しば／＼跳つけられた若人、婦人に向ひ、調子はと慷慨を帶び

若人ナニそれでは宜しいです、無理には決して申しません、これから僕も一ツ大憤發して、天下に名を轟ろかす覺悟ですから

婦人いと平氣に

さうですか、いよ／＼そうなつたら、其時また御相談に入つしやい、

兒籃

小公子。（丁）若松しづ子

第七回

とふ聞て、モドント氏は思つたより好都合と悅びながら、しばし口籠つて、

ヒッギンスの一條で御座り升、エッヂ、ファームのヒッギンスて御座り升が昨年の秋は自身に病み、又候、子供に熱病を患はれ、不運が引續いて、困難いたし居り升、極く締りの好い方とは申されませんが、不運の重なつた爲、萬づ、不手廻りにあつて、只今の處、何分家賃を納め兼ねて居り升が、御差配のニユーウヰックが早速納めぬとならば、立退く樣に申聞け升たそうで御座り升、然るに、目今、同人妻も病氣で、立退くと申せば、家族一同にとつて、容易ならぬ難澁故、何卒暫らくの御猶豫を手前より御前へ歎願する樣に、申出升て御座り升、暫時御猶豫を願ひさへ致せば、又どうにか、都合の致し樣も有る、と申て居升る、

侯爵殿は、はやお顏の色を變へて、

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

フン、みんな同じ樣なことを云ひ立てゝ居るな、

フオントルロイは少し前へ進み升て、始よりお祖父樣と客人との間に立つて居つて、一處懸命に耳を傾けて居り升たが、直ぐヒッギンスのことが氣になり出しました。子供は幾人あるのだろう、そうして熱病のあとは大層弱つて居るのか知らと思ひ、モドント氏の段々との話しに一層身が這入つて、大きく開けた眼を離さず、モドント氏を見て居升た。敎師は又も一際願を强めやうとして、

ヒッギンスは正直な人物です、

御前は

隨分厄介な店子らしいナ、いつも不手迴りに斗りなる樣にニユーウヰックが申て居つた、

敎師は又、

何樣今の處、非常に難澁いたして居り升、殊に同人も妻子をひどく不憫に思ふ樣子で御座り升、田地をお取り上げになると致せば、明日よりも饑喝に迫る場合で、增して熱病後衰弱いたし居る二人の子供に、醫師の命じられた滋養物などは、思ひもよらぬことで御座りませう、

とふ聞いて、フォントルロイは一足前へ進み升た。そうして突然、

ミケルも丁度其通りなんでしたよ、

此時、侯爵どの、ビックリされ升た、

ナンダ、貴樣が居たのだつけ、おれは慈善家のこゝに居るのはサッパリ忘れて居た、其ミケルといふのは誰のことだ?

と仰つた老侯の凹んで目に、是も一興といふ樣な一種特別な思わくが現われ升た、フォントルロイは答へて

ミケルといふのはブリヂェットの亭主で、熱病をわづらつた人なんです、それで家賃も拂へず、葡萄酒だの色んな物が買へなかつたんです、ダカラ、お祖父さまが僕に助けて遣るお金を下さつたんじや有ませんか、?

老侯は異樣な八の字を額におよせなさい升たが、一向こわらしい八の字では有りませんかつた、そしてモドント氏に向つて、眼を放ち

どふだろう、こふいふのはどんな地主になるかな、實はこれの欲しがる物はなんでも遣わす樣にハヴイシヤムに申付けて遣つたのだ、スルト、ねだつた物が乞丐にやるといふ錢

ださうだ、アツハヽ、
フォントルロイは熱心に、
アレ、乞丐じや有ませんよ、ミケルは立派な煉瓦職人でしたよ、それから、其他の人もみんなかせぎましたもの、
侯爵は、これはしくぢつたといふ調子で、
其通りだつたな、そんな立派な瓦職人だの、靴磨だの、林檎やだのだつたな、
そふ仰つて、暫らくフォントルロイを見詰めて居られ升たが、フト新らしい考が心に浮び升た。其考が極く高尚な情から起つたとは確言出來ませんが、悪るい考へでは有ませんかつた。間もなくフイト、
こつちへ來い、
と仰つたのを聞いて、フォントルロイは進んで間近く差寄り、わるいおみ足丈には觸れない様にして居升た。御前は改めて
こふいふ時に貴様ならどうする?
この時モドント氏は心の中に妙な感覺を起し升た。元來、極く考への深い方で、富めるも貧しきも、正直で、勤勉なるも、不正で、怠惰なるも、領内の小民を知り悉して居り升たから、今彼の茶勝な眼を大きく見張り、兩手を深くポッケットへ入れた何氣ない小息が未來には善にも悪にも何れにも振ふ可き大權を握るのだと始めて心に判然悟り、さて、傲慢、放逸な老人の一時の娯樂の爲に今から心のまゝを働く自由を與へられて、萬一其子供が質朴、慈善的な質でなければ、啻に小民共の爲已ならず、自分の爲にどの位の憂を來たすか知れぬと考へ付き升た。侯爵は又も言葉を推して、
どふだ、貴様なら、こふいふ時にはどうする?
といはれて、フォントルロイは少し差寄り、極く中の好い友だちにでもしそうに、御手を侯爵の膝の上へのせ、誠に心置のない調子で、
僕は少さくつて、何にも出來ないから仕方がないけれど、大變お金持ならば、追出さずに、貸といて遣て、それから、子供にいろんな物遣り升う、だけど、僕、まだ少さいからしやうがないは、
といつて、一寸口を閉ぢると思ふと、急に顏がさえ〲して
ダケド、お祖父さんは何でも出來るですチイ、
といひ升と、御前は其顏をヂット見詰めて、

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

ムー、貴様はそう思つてゐるのか？

と仰つて、少しも御不機嫌の様では有ませんかつた。フォントルロイは、

僕チー お祖父さんが誰にでも何でも好なもの遣れるつていふ積なんですよ、ニユーウィックつて誰です？

侯爵様は答へて、

それは差配人の名だ、小作人には嫌がられる奴だ、

お祖父さん、今ニユーウィックに手紙をお書なさるの？、僕、筆や墨持つて來ませうか、そうすれば、此卓の上のおもちや、とつちまい升わ。

そふいふ處を聞くと、人に嫌られる樣なニユーウヰクが手ひどい事をするまゝに侯爵が捨て置れるとは一寸も考へなかつた樣子でした、侯爵はまだチツト顔を見詰ながら、少し躊躇し

貴様は手紙がかけるか？

エー、書けるけど、よくは出來ないんです、

それでは、卓の上の物を退けて、おれの机から筆と墨と紙を一枚持つて來い、

と命じられるのを聞いて、モドント氏は只管、注意して居り升と、フォントルロイは手早く、云ひつけられたとを致して、暫時の間に、紙と大きな墨つぼと筆の用意が出來ました。フォントルロイは嬉しそうに

サア、お書なさい、

といひ升と、侯爵さまは

ナンダ、貴様が書んだ、

フォントルロイの額は急に紅色になり、驚いた樣な聲をたてゝ、

僕、書んですか？僕が書たんでも間に合うんですか？、僕、字引がなくつて、誰にも聞なければ、綴字が好く出來ないんですもの、

侯爵は、

間に合ふとも、ヒツギンは綴字が悪る いつて、苦情はいふまへ、全躰おれが慈善家なのではない、貴様なのだから、

マア筆に墨をつけろ、

フォントルロイは筆をとり、インキつぼに入れ、居住ひを直して卓に寄り、

サア、なんと書くんです？

侯爵は、
「當分、ヒッギンスを其まゝ差置く可し」、と書いて、下へフォントルロイと記るすが好い、
フォントルロイは又筆を墨壺へ入れて、尙居住を直して書始め升た。さて中々丹精なのろい仕事でしたが、一心になつて、掛りましたから、暫らくすると、書付が出來上り升て、ニッコリ笑ふ中に、聊か氣遣ひな樣子を雜へて、お祖父樣にそれを渡し升た、そうして
どふでせうか、それで好いでせうか?
といひ升と、侯爵は受とつて、書付を見、お口の周圍が少し計り妙にモヂ／＼する樣でした、
好し、ヒッギンスは大滿足に違ひない、
と仰つて、其まゝ、モドント氏にお渡しになり升た、モドント氏が書たものを見と、宛名のニューウヰック、又ヒッギンス其他の綴りが妙に間違つて居て、ミストルのMが少さい字で書いて有つた外に、「差置く可し」の上に「何卒」といふ意が添へて有り升た、そうして終に、「フォントルロイ、敬白」と記して有り升た。

アノ、ホッブスおぢさんが始終、手紙の下へそう書き／＼し升た、よそれから、お祖父さんはそう仰らないけれど、「何卒」つて書く方か好いかと思つたんです、「差置く可し」と書くのはそれで好いんですか?
侯爵は、
字引に有るのとは、チット、違ふ樣だナ
僕もそうか知らと思つて心配したんですよ、僕聞けば好かつた、何んでも六ヶ敷字は字引で見なくつちや、そうすれば大丈夫ですネ、僕も、一度書直しませう、
といつて、こんどは、注意して、一々侯爵樣に綴字法を質問しながら、中々立派な寫しを拵らへて、こふいひました、
どふも綴字つて變なもんですネ、考へて見てこうかしらと思ふのと大變違うんですもの、僕please と書のはp-l-e-e-s と綴るのかと思てたら、そうじやないんですものネ、それから dear は聞て見ない中は d-e-r-e かと思へ升わネ、僕、時々厭になつちまうんです。

雜録

衣裳

蓮峯外史

艶麗なる桃李の姿も花の衣を脱ぎ捨て春のかたみの山吹も黄金を散して後はさつぱりしたる夏衣緑涼しく見へにける草木情なしといへどもあはれ人の身の上にかしこきためしを與るものかな世に黄金を散してなくもがなの衣裳をしつらひ誇り顔に人の眼の前をかざりおのが慾にまかせておごりたかぶるものあれど夏は蟬の羽ごろもを着し冬は温袍を身に纏ふの外他に用ゆべきことの必用をも思わざりき衣服の相應しからぬは身の禍なりとしいへば身分相當の衣裳を品よく着てこれ見よがしの顔をせぬこそ意氣とも恰當ともいふあるべし馬子にも衣裳鬼に振袖とはいふものゝ瓦礫の如き無作法ものが濃鼠の如き縞に袯布を着て出たり福は内の夕に面を傷めた樣なる孃樣が目だつ姿の裾模樣振り切れる程振袖でシナクナされては兩度戒心そこで顔と容貌と相應せねばならぬといふことさりとてどういふ遊仙染が當世向でなんといふきの紡績縞かつこふといひ一寸人柄申分ははて御坐いません縞さん紺さんこん〳〵ちき化す樣な品物は手前にはハヽーこれ小僧イーと御見立申程の智惠もなければ自道を行のは地味かは知らねど幾分か美術に因み時樣にも一寸さわりて驕奢に流れず經濟を旨として色合から縞がらまで工夫いたし柳の姿桃の豐肥芙蓉のおもかげ蓮のはすはな容貌まで御覽に入度しそはあまり美人共進會の廣告の樣だと御嘲笑になりませうが五月雨もいつしか霽て杜宇も一寸耳に入り新涼一擔氷を賣る聲に幽人は午睡の夢を醒し鰹々々と呼ぶ聲にあれ勇みだと下婢が飛んで出る時節となりぬされば女學子の請求も因循すべきにあらず又候筆にまかせて走りがきしばし御耳を拜借しても曾呂利の奇計もさら〳〵無し御案心下されかし。

時樣を旨として衣裳をつくろふことは藝人俳優の事にして素人にはあまり變動の速なるが爲め摸倣せざるをよしとす假令は三津之助のおみつが姿金太の女房おつるの小意氣パット世評を夕に博し朝には消て跡なき返魂香裏の美人の姿にひとしかるべし素人は俳優の如く其姿を自由自在にやつし得べきにあらざれば工に裝成しても批評家の眼より見る時は何となく欠點の多きものなり矢張自然天成の美質と美姿を粧ひ柳は柳

の姿をやつし桃は桃のかたちをあらわしたらんには一しほ美麗にして見どころあらん今や柿色がゝりたる棒縞のフラ子ル稍夢のあとゝなりてせるや數寄屋の新形にそろ／＼眼うつりする時節なればまづ夏の衣裳に工夫することそよけれ薩摩がすりは餘り上品には見ねども若き肉色白き婦人が緋縮緬の長繻絆の上にこのかすりを着て素足なるはいやみなくしてよく見ゆれども廿五以上の婦人には思の外ひきたゝぬものなり鳴海絞りは一寸意氣にして仇ぽくみへ茶屋女町家の若き細君には適すべし富豪紳商の阿孃にはかへつて見どころなし洗波縮の柿色は自己が意匠の外なればこれを論ぜず數寄屋の横竪がすり小辨慶は中肉色白き婦人に適すべし越後綛銚子綛平素の服にはよろしかるべし帷子に絹上布加茂上布明石綛など品よく見ゆべし若きにも中年の婦人にも適すべし宜しく自己の肉色如何を覺て色合を工夫し出すべし當時はセルに種々の縞がらあり丈夫にして着工合よろし一寸と袷に至極よろし今や東京の染物揚裏より中かた或は小絞に新がたを出し價も廉にして各自に適するもの多し之を撰むの巧拙精粗に許多の關係を生じて上品なる姿容の人も下品に看ゆるなり肉の痩肥脊の長短と粧飾に因りて棒縞或は小紋などゝ注意して着用すべきあり試みに一例を擧れば、

脊のすらりとして中肉色白く梵宮の細腰章臺の柳の如く婀娜なる姿に數寄屋の大名縞を着せ小納戸博多の丸帯を結び淡泊ある墨繪ある白呂縮緬の襟或は小紋縮緬に鼠どんすの帶を結びたるは何となく品よく看ゆるなるべし。

肉肥にて脊も餘り高からず白き地色に紅を含みたる肉色稍活潑の擧止あり或は少し淺黒き肉色あれど愛敬多く桃源春淺して其花は未だ流水に伴れざる姿に鼠縮緬に唐繻子薄色の洋繻子と合せ帶襟は淺黄地の縫取もの或は南部縮緬棒縞は大方博多唐繻子の合せたる帶甚宜し淡泊に失せんよりは寧ろ濃なる樣に裝すべし。

中肉中脊肉色白く樣子に柔温にして行儀よく上品にして芙蓉のおも影あり毛紋縮緬薄き爲紫の御召縮緬に呂縮緬の夏襟とき色長繻絆藍氣鼠の繻ちんの帶など宜し平素は關東御召四ツ入の單衣越後縮隨分似合申べし。

肉の瘦肥を論ぜず脊の長短に關らずおもに其擧動の瀟洒として泥より出で濁に染ぬ蓮の如くさりとて露を玉と欺く調子好

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

き性質にして上品よりは寧ろ意氣といふ容姿ありそは小納戸鮮縮緬の衣裳に藍氣鼠博多の帶を結び白縮緬の長繻絆を着す或はセルのフラチル縞有松染もまゝあるなり。

かく美人に衣裳を着けて見たもの丶丈の高き低き肉あひの痩肥色の異同もあれば自己が容貌如何を知りてよきほど折衷しあまり時好はづれに陷らざる樣にいたしたきものなりむかしは婦人の姿といへば吾妻を以て好とし花の都も梅の難波もながくおよぶやうにもあらざれど今は洋服でも日本服でも御勝手次第の世の中ゆへ何事も混合が流行して一種異樣の出たちに姿を装ひ淡泊なる吾妻風の姿はさながら高尾薄雲の繪姿の如く繪草紙屋舖頭にて見る位の事とはなりにけり間嘗て其の姿あるも小癪な悪ていなと直樣批評家の鎗に突たてられ擯斥せらるゝの恐あるべし今や婦人の装飾は若やきて装成さへすればよいと御思召すか或は造化の力にて造成したる廉質も人の智恵にてたぶらかす御積りかは知ねども廿歳になりたる婦人が小造なれば肩に揚げしてみたり四十にありても皺が細ければ紅粉を施し棒縞の衣を着して耻とせずされど仲間としの批評は甚しく杮色の單衣を着て懲役人が仕衣の色を目たつを憫み水淺黄の帷衣を着て幽靈の姿を恐れ自己が尻の棚なるを二三寸も帶揚げにてつり上げながら一寸と意氣ある風姿を見れば引かけにでもすればよいと棚下しをいゝたがる口から先に生れたといふ婦社會のクリチックにはさすがのケームスは數歩を讓らめと思れたりされば己を識るといふ金言を守りて自己が容貌に適したる衣裳を着することを務むべし。

婦人家に在る時は麁服を常として意匠だも擧て放擲して顧ざるものあれどこはそも注意すべきことなり餘り身なりをくずしてその良人をして額を顰せしむる樣あることをせばこれ婦人失徳の大なるものといふべし美麗ならずとも平常心がけて其地位を貧富に應じて相當の衣裳を着し容貌を整頓して耻かしからぬ樣にすべきなり殊に人前にて幾度となく自己がうしろ姿を顧るは甚見苦しきものなり或婦人はうしろに眼があればよいやぶ眼も一寸用に立などゝ考るもあれど當時は舶來の善き姿見鏡もあれば必ず不都合なき樣に自己が部屋にて衣裳を整頓しあまり左顧右見せざる樣にすへし。

婦人の殊に注意すべきは價値なき瓦石を錦繍にて包みたるが如く智識を磨かず德性を發揮せずして衣裳のみを派手に装ふ

は甚恐るべきことなるを知るにあり人前のみ工に裝ふ時は人をして其初めは一顆珠と思はしむ採りて見れは即ち是一滴の露美麗も墓なく消へて跡ぞなき失望の境遇に入らしめんことは手を翻すが如し詩人バイロンが意中の人と戀慕せし婦人が一日いとおろかなる風を爲して窓に倚たるを見て戀も情も即時に醒はてたりといへり是其婦人の不注意によりて種々の欠點を見出されたるものなり世間にはこの例極て多し婦人の容貌を清潔美麗にするは虛飾を爲して人に誇曜するにあらず別に意味の有るありそを了解せられんことを姉妹に望むものなり。

○弓張月

うゝまさた、

久方の月の桂も秋はなほもみぢすればやてりまさるらんとよみし壬生の忠岑が歌は月の中に河あり河の上に桂の樹ありて高さ五百丈とあんいへる故事より出でしものにて其想像に富める所いと面白し。斗牛の間を徘徊する東山の明月は蘇東坡をして造化は無盡藏なりと嘆美せしめし同じ秋の月も我身一つの秋にはあらねど大江の千里をして月見れば千々にものこそ悲しければとは歌はしめたり、雲井の宮殿が伏屋かはりなき月影もながむる人の心にぞすむあるべし。今はむかし醍醐の帝の時の歌仙凡河内の躬恒が歌道にすぐれしことは今更いふまでもなし或時帝は躬恒を近く召し給ふて月を弓張といふ心は如何にぞこれがゆへよしつかふまつれとありければ直に歌もて、

てる月を弓張としもいふことは山べをさしていればなりけり、

と答へ奉りしぞまじめにおどけたりといふべきなり。

○三島町小中島妓樓小澤精兵衛氏廢業の履歴

小澤精兵衛氏は伊豆國田方郡北江間村の產にして小澤某の男なり嘉永六年即ち今を去ると三十九年前三島宿大中島町今木屋才兵衛氏の養子となり始めて貸座敷渡世を營むに至れり。後ち七年故あり養家を辭し自營の道を講じ居を現今の所即ち小中島町にトし家號を清水樓と改稱す。時に三十三歲なり然れども其の取る所の業は依然として汚賤の極みなる娼妓貸座敷業なり。

氏の業を營するや日に繁榮日に盛大を極め品川より伊勢に至るの間貸座敷業を以て鳴るものなり仝業社會中清水屋精兵衛と稱する誰れか知らざるものあらんや蓋娼妓を蓄へ器械を具へ全盛を極めたり。

聖書に曰く「それ神はその生みたまへる獨子を賜ふほど世の人を愛し給へりと其愛の廣大なる何を以てか測るを得んや神の民を見る恰も父の放蕩子に於るが如く聖前に導引せんとして之れが機會を待ち給へり。時なるかな時なるかな明治廿一

年頃三島教會員にして全氏の親戚なる齋藤某を以て神は氏に自營の道の不正なるとを說かしめたり氏之れが懇諭に逢ふと雖も因習の久しき未だ迷霧を脫する能はざりき。然るに神は猶も捨て給はず氏が姪なる齋藤孃の書狀を以て氏が心を動かせり如何に剛復なりと雖も天使の如き妙齡の女子が眞心を込めたる文意に感ぜざるあらんや外形上大に顯はれざるも少女の再三の懇戒氏が心に動搖を與へたるや必せり。爾來神の聖旨斷へず氏の上に降りつゝありき而して明治廿三年一月に至り神は津田仙君巖本善治君伊藤牧師の三氏及び齋藤兄をして氏を訪問せしめたり懇切なる津田君の熱話溫柔なる巖本伊藤兩君の面貌氏が心に感動を與へたり。既に先きに動く處あり故に其感ずるや甚だし。

主曰く凡て相爭ふ國は亡び凡て相爭ふ邑や家は立つ可らずとむべなるかな言や根底動搖するの國民いかで立脚の地位を安全ならしむるを得んや況んや惡魔の國民たる氏が心の根底動搖せり、いかでサタンの王國の破れざらんと欲するも得んや氏が天の王國に降伏するけだし遠きにあらざるなり。

然れどもサタンは此の世の主なり如何んぞ一方の勇將たる氏を易々渡す可き計策を氏が心に盡し誘ふに三業取締の職にあるを以て、永年の業、營業上器械具備するを以て廢業を躊躇せしめ且つ三十九年間災異に罹らざるを以て我れなる觀念を捨てざらしめんとせり。

サタン如何に勇なりと雖ども神の臣民に敵するを得んや況んや神に於てをや神は海山もたゞならざる恩惠を下し氏が年長なるの考へを以て深く考ふる處あらしめ遂に本月廿日意を斷然廢業するに決せしめたり。

玆に注意す可きとは我が三島の地は習例として每年八月中旬宮幣大社三島神社の祭典を執行せり。之の時や戶々店頭無數の小燈を連ねさながら不夜城の觀を爲す。就中娼家に至りては紅燈を擔頭に懸くるのみならず種々の粧ひ以て遊野郞を擒にせんとす然るに氏は既に同業社會に廢業を告知し樓上格子を排ると十數日以て公然廢業を爲したるもの丶如し然るに之の世の主氏が心に祭典の利益あるを想起せしめたり是に於て氏謂らく格子を取り去り祭典の準備を爲さんか已に公然社會に廢業を知らる何の理由に因てか樓上の格子を除去せん傍人の批評如何すべき利益を得んや人の嗤はんを如何んせんと氏躊躇する之れを久うして遂に意を決する何ぞそれ妙なるや。

彼得曰く謹愼儆醒なんぢらの敵なる惡魔吼る獅子の如く偏行を呑むべき者を尋ぬ云々と吾人警醒せざる可らず。

サタンも之の世の主たる其深遠策なる何んぞ妙なるや然れども神の聖旨に比するに至ては及ざる豈に天地の差而已ならんや。

氏が括子を排入したるは神の攝理にあらずして何んぞ。聖書に曰く「あゝ神の智と識の富は深いかな其法度は測り難く其蹤跡は索め難しと氏をして不知不識の間に格子を排入せしめたる神の智は測知せんと欲するも吾人々類の豈によくする所ならんや讚むべきかな我らの神榮光世々爾にあれ亞孟。

氏業を廢するに方り娼妓をして大抵泥足を洗はしめ再び泥海に苦しむの悲境に陷らざらしめたり之れ氏が前借上大に恕する所ありしが故なり。

叩くに答へざる者あらんや呼ぶに應ぜざる者あらんや神既に氏を呼ぶ氏如何んぞ答へざらんや既に氏の心中に正義の觀念は湧出せり氏駿豆義會に於て禁酒に廢娼に其他世の有害なる風俗の矯正演說の企圖あるを聞くや金若干圓を寄附し双手其の擧を贊成し駿豆義會をして充分なる運動を爲さしめたり。

今や家宅の修繕に際し其心繁の繁忙の忙たるの氏細君を促して演說會に出席せしめたるが如く之れ神氏が心に在すの證なり嗟嗚氏が主の聖前に跪くけだし遠きにあらざるなり。

世の不正以て得意然たる人サタンの軍勢よ氏が勇氣の如何に大なるかを見よ其の決斷の勇ましきを覗よ何んぞ正義に歸らざるキリスト爾を呼べりサタンの權下なる殿輩よ乞ふ少しく小澤氏に鑒て可なり。

一日氏從然として齋藤兄に語りて曰く余は氏輩の勸告により今や廢業すると雖さも惡魔の襲擊は盜の夜る來るが如し油斷ならざるなり希く君よ爾が信する神に余が爲に恕宥を折れ余が上に恩惠のあらんを求めよと之れを聞くもの齋藤氏而已ならんや誰れか主にあるの兄弟祈禱らざらんや。

祈れよ求めよ江湖の諸君主にある姉妹兄弟願くは氏が上に一層の神の恩雨のあらんとを氏が慈母を慕ふが如く救主を主と呼ぶに至らんとを切に希望に勝へざるなり。（伊達覺太郞、記）

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

隨感

人の意志

みどり

人の意志は自由のものか、もしくは器械的のものか、茲に千古百世の哲學爭闘史を復習するの暇まあらず。

境遇に制せられ、浮草の漂よふが如く變はりゆく人は、意志の弱き人と云ふ。意志なるものは、境遇に制せられざるものたることを證するなり。境遇の奴たる人を、精神なしと云ひ、境遇を制する人を、英雄と云ふ。英雄の意志は、自由自動にして、毫も器械的の性を存せず。

之に同意せざる人の云く、能く境遇を制する所ろの精神家は、其精神力を、師父より遺傳したり、即はち之れ師父の感化と云へる一種の境遇に制せられつゝ在るの人なりと。

左れど、其の師父をして能く精神家たらしめたるものは何ぞ、之より以往論じ詮じて、決局必らず、境遇に制せられざりける精神の存せしことを推定せざるを得ず。

近ごろ教授ガルネル、猿猴の言語を研究し、人の能く談話するは神が人にのみ與へたる特別の力あるが故にあらず、亦た談話は精神上一種の靈機ありて妙に之を發するにもあらず、肉躰に生理上の所望を生じ、其慾、筋肉を刺激して扨ては、舌頭より音聲を發せしむ。此の聲を談話と云ふ。故に談話は、肉慾の刺激より生じ、別に精神意志の存するが爲にあらず。此を以て人のたゞ能く談話するによりて、人に自由の意志ありと證論したる理解は最早破れたりなど、類推するものあり。

左れど此は大早計の結論にして、未だ眞理を得たりと云ふ可らず。抑そも、ガルネル彼自身が、斯の如き研究を爲し得たるの意志は、果して器械的の作用に止まりし乎。學術上の研窮は、惣じて自由の注意力より起る。天下の物理の緻密なることを發見すること彌よ多きにつれ、其發見力の至つて大ひなるは即ち自由注意力の隨つて大ひなることを證す。是れ、意志の自由なるものにあらずや。物理の因果を研窮して、斯なれば斯なるものと明らかに定論するに至るは、惣べて幾多の自由注意力を經たる結果あるべし。もし肉慾上の所望によりてのみ人事を爲すとせば、世上未だ曾て如此き研窮發見あらざるべし。學術研窮の意志は、肉慾上の所望とは異なる。

然りと雖ども、人は自由の意志を有せず、たゞ境遇によりて

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

動くものなりと云ひ、人爲万事は、肉慾より發し、別に精神靈性の妙機あるに由らずなど云ふの議論行はれ、更に亦た實際世界に此論を證するの實例ありとせば、如此き世こそ悲しけれ、即はち其世は、肉慾によりて事を爲し、境遇によりて制せらる丶人の多きとを證すれば也。宇宙世界、「我」よりも確實なるものなく、亦「我」の感覺ほど明白なるものあらず。而して、我が感覺に、意思は自由なり、行爲は肉慾より發せずと認識するもの多き時こそ、幸ひなれ。然らざる議論行はれ、此議論に雷同附和するもの多きときは、吾黨奮つて大ひに努力せずんばある可らず。

小學校歸りの二人の兒

甲店のおつかさんは腸チブスだつて、ほんとですか
乙アー、そうさ、それがどふしたんです
甲どふつて、もしそうならあしたつから學校へ來ちやわるいと思つてゝす、
乙なぜ
甲なぜつて、あれは傳染病つて、君が運わるく頂戴して御覧ん、學校中危いじやない？
乙ナニ僕が頂戴するもん？
甲なぜ？
乙だつて、うちのおつかさんは繼母だもの、なんにも頂戴したとなんかありやしない

家政

○餘るは足らざる事

山下石翁

勘定の時、餘まるとあらば、足らざる證據なるべし。錢は自づから湧き出でず、人は故なく惠まざるものゆへ、勘定の時、譯もなく、餘まるべき筈なし。然るに尚ほ餘まるとありとせば、此は何かッケをとしありて、勘定を間違へたるなり。而してッケをとしを爲すほどなれば、何處にか不取締の事あるわけゆへ、勘定に餘まりあれば、不足を生ぜしと覺悟し、いたく愼しむべきものなり。

○一日の用事

世話しき時ほど落付き、一々用事を片付けて、目の前の仕事畢らざれば、次の責任を負はぬやうにすべし、之れ忙中閑を得る妙法にして、終始綽々の餘地を存する工夫とす。然るに、世話ずきの人、不用意の人、豫算なき人などは、一つの事を未だ終へざるうちに、第二の他の事を約束し、初めより無理なる注文に應ずるゆへ、絶へず忙がはしくして、而かして何事も十分に出來ざるものなり。一家の事務亦た如此し。下

女下男を使ふときの覺悟亦た如此し。惣じて、物事に順序をつけ、次々に責任を負ひ、一つ〳〵仕事を片付るようにすべし。然れば、いつも心のどかにして、春の日の物しづかなるが如けん。その樂しみは、輕率なる人の味わひ知らざる所ろありとす。

○利益を前用すべからず

かく〳〵のもうけあるべしとて、之を當にして豫かじめ遣ひすつる人あり。斯る人は借財いよ〳〵增し、到底浮む瀨のあらざるものあり。凡そ、金錢は、手に取らざるうちは、確かならず、決して當にすべきものにあらず。よし、當てにすとも、之を前方遣ひすつる如きは以ての外の事なり。たとひ、當てにせし丈けのもうけありとも、之を先に遣ひすてたれば、其時に至りて最早些少の樂しみなく、不滿にたへずして別に奢るともあるべし、之れ無用に損するとの第一也。元來、もうけたる金は、之が爲めに骨折りたる苦勞の少なからぬとを思ふにつけて、節儉の心持も起るものあり、然るに、前方當てにして之を遣ふ人は、未だ其苦勞を爲ずして先づ之を費やし去るとゆへ、節儉の心は毫もなくして、無用に遣ひ拂ふと夥たゞし、之れ無用に損するとの第二也。當にしたる目途、圖に當り、豫算迪りもうけたりとするも、其もうけ豫算より多かりしにはあらず、然し豫算通りにあるとは十中の一二にして、多くは之よりも少なきものなり、扨て當てにしたるよりも少なきときは何如ん、既に當てにして遣ひ棄てたれば、もはや取かへしの仕樣あらず、即はち全く餘計の無駄遣ひを爲したるなり、之れ無用に損するとの第三也。故に、たとひ、もうけありと信ずとも、前方に之を遣ふ可らず。此の覺悟なき人は、遂に經濟を亂し、巨多の借金をこしらへ、到底首の上らざる人あり。

○新香の物

茄子、瓜などの澤山あるときは、後の不自由を思ふもの稀なり。すでに、其乏しくなりたる頃には、香の物に自由を欠き、甘き野菜なきとを憂ひとす。夫故、夏の半ば過る頃より、醬油樽の明きたるに、鹽を強くして、瓜、茄子を漬けをくべし。斯て、冬となり、野菜もの、絕へて無き比ろ、漬けたる瓜茄子を取り、薄く刻み、水出しをして、細かに刻みたる椒茄をふりかけ、食膳に供ふれば、珍らしき香の物となるべし。又

た、茄子を取出し、椒子をかきて混ぜおけば、即席からしづけとなり、經濟にして且つ味はひ宜し。

○下女へ申渡しの事

主婦たるもの、初めて下婢を雇ひ入れ、夫々申付くるとき、斯く言ふべし。私は、一々細かに差圖せず、お前も万事たゞ使はるゝのみにては、入たるの甲斐あるまじ、先づ當家にて下女の爲すべき仕事は之れ〳〵ゆへ、夫丈けをお前が辨ずれば宜し、之を早くすとも遲くすとも鄭寧にすとも粗鹵にすとも、夫はお前の器量次第、勉强次第なり、私は結果を見て賞めも戒しめもすべし、其の仕方は悉とくお前に任かすゆへ、お前の技倆を振ひて手繰を好くし、如何やうにとも辨じて見よ、又、度々は叱らぬゆへ、一度叱りしとは覺へ置きて、再たび失策せぬやうに用心せよ、と言ひ渡し、すべて彼女を一個の智慧ある人間と見て、之を機械か何かの如くに取扱はず、彼女に責任を感ぜしめ、自から工夫するやうに仕向くれば、仕事も能く擧り、働らきに陰陽なく、下女の人品も好くなり、細君の手間の省けること大方ならず」とは、實際に經驗せし主婦が、しば〳〵語らるゝ所なり。

批評

新日本史

民友社出版

竹越與三郎氏の著にして、今ま其上卷を出版す。政變、外交の二部に分ち、前后十八章、紙數四百頁に越たる、可なりの大著なり。事實に珍らしきことのあるなく、論評に秀いでたるものあるなし。概して、普通の著作なりと云はざるを得ず。左れど、文氣一呵して、千万言水の流るゝが如く、特に人物の短評に至りては、甚はだ要緊を得、讀者を喜ばすこと多し。新日本の開化史としては、從來未だ名著あらず。時に一二の出版書ありつれど、大率ね新聞紙の切抜に過ぎざりき。故に、左したる名著作は未だ之を望むの暇まあらず、普通學校用の品にてもあれかしと要むるもの少なからざるに當りては、竹越君が此著の如き、頗ぶる用に適すと云つべし。但だ年代の記載、不明もしくは誤記あり、同一事實を同文章によりて重複するなどの短所はありと云へど、文章の概して面白きにより、讀む人をして通讀せしむるの力あり。故に、新日本の小史を通覽せんとするもの、及び、普通の學校用に備なへん

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

とするものなどの為には、恰好ならん。婦女諸君が、近代政變の大綱を知らまく欲するに對しては、特に宜し、一本を購ひて可ならん歟。

既に此の普通にして一般なる新日本小史出でたり、今后一層の精細、明晰なる批評眼を以て、維新政變の大要綱を、更に深酷に論評するものあらんことを要む。

○大日本農史　博文堂出版

農務局にて八年の星霜を豫算し、一大農書を編纂せんことを計畫せしに、半途之を中止して原稿を閣に束ぬるに至れり。田中芳男、織田完之、黒川眞頼、溝口傳三の四氏之を遺憾とし、私かに之を整理して、此度農史門を出版せしむ。大本三冊、分て二十卷とし、合して一千五百頁あり。近來の大著作なり。編集の躰裁は、編年躰にして、神代、上世、中世、近世、今世の五代に分ち、代々の帝代に隨つて順次に錄す。錄する所は、千百の參考書により、事實を雜然として收記せるに過ぎず。絶へて農政の大躰、もしくは農民の文野を知ることを得ざるなり。左れど、官吏が、多くの金を費やし、諸種の書籍を集め、而して公衆の為めに書を著すとありとせば、寧ろ此躰裁を好しとす。蓋し、學者は、彼輩に其論評を聞かんことを要めず、事實編輯の勞を所望するが故なり。

○農事參考書解題

大日本農史の附錄として、古來の農書八百七十餘部の題を解し、書中の大躰を示す。日本農政の歴史及び事實を研究せんとするもの、先づ此れによりて洋を望み而して后ち舵を操らば、自由容易にして、所思の彼岸に達することを得ん。

○雨の日ぐらし　撫象子

「少年文學」の一篇として、博文館より出版す、美妙齋主人が著なれど、之は亦た類ひなきほどの拙作なり。前年、いらつめ初めて世に出でし頃ほひは、主人が天才も未だ多く熟し居らざりしならんに、其の想像の豊かなる、其用語の巧みなる、殆んど讀む人をして心恍惚たらしむるに足り、分けて、子供の讀物めきたるものに妙を得たるに、爾來數年の練磨を經たる堂々たる今日の主人にして、斯る作あらんとは歎くべきことなり、之れ主人が天才の萎れたるにあらず、其の彌々忙繁にして、推敲、切磋の足らざるがゆえなるべし、余は、主人が、自から重んずるその更に厚からんを望む。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

小說

腹中の蛇（二）

湘川漁夫譯

ロデリックは忽ち、人の見て狂氣となす行狀を現はし、自ら却て人の通常の經驗に異り、心の内に心ある、兩性を備ふるを誇り、蛇を以て神となし（無論天上の神ならで、地下の神なれど）其力により、忌み恐るべき事ながら、名譽心の望ても及ざる、神聖高貴の身となれりと想像して、止ざるは怪むべき事どもなり。されば彼は其不幸を以て、榮譽となし、心中に蛇を蓄はざる者を見れば、甚だしく卑下すれど、又折々は人性元に復し來りて、頻に交際を求め終日目的なしに（彼と世との間に兄弟の緣を繋ぐを以て目的とする外には）市街の中を歩き廻り、慧しき眼を以て同病の患者を尋ね出すを其習慣とせり。狂氣なるか、正氣なるか、其は兎も角も人の弱點過失弊害を見出すに巧なるを以て、彼れの胷に蛇のみならず、人の罪惡に緣故ありて、不思議なる觀察力を與ふる惡魔の神に憑れ居るならんと、多數の人は言ひ囃せり。

例を擧ば、ロデリックは、三十年前より兄弟と不和なる人に逢ひ、市街の群集の中にて突然に其胸を執へ、驚く顔を熟と眺め

蛇は今日如何なるかト

同感の色に、嘲を含んで問ひけるに

蛇とや、其は何の意ぞト

彼の人は訝りて答へければ、ロデリックは尙續けて

蛇よ、蛇は嚙むとなきか、君は今朝祈禱しつゝあるべかりし時に、蛇と語らひ居りたるか、兄弟の健康と、富貴と、名譽とを聞きたる時、蛇は君を刺したるか、其子の放蕩を知りたる時、蛇は喜びて跳りたるか、刺せる時も跳れる時も、身の内外に及ぼす毒の、酸みと苦みを感ぜざるか、是は通常の擧動なり、余は自らの經驗により、其性質を能く知れりト

語りきかせけるに

巡査は何處にある、何故に此の狂人を放し置くやト

被害者は聲を荒らげて呼び叫び、同時に思ず胸を押へければ

ハヽ扨は蛇は刺したるよなト

ロデリックは潛かに笑ひて手を放せり。

ロデリックは屢、輕氣ながら蛇に似て毒氣を含る、諧謔を用ひ、人々を苦しむるを以て樂とせり。或る時功名心に充滿せる政

治家に逢ひ、眞面目の容貌にて、彼れの大蛇の健康を問へり、其は彼れの全國全政躰を呑まんとする大食慾あるを察したればなり。又或る時、吝嗇なる金滿家の老人の破たる外套を着け汚たる帽を冠り、黴たる長靴を穿き、案山子の如き形にて、小錢を撫で擦り、銹たる釘を拾ひ上げ、市街の中を彷き歩めるを止め、其の尊き紳士の腹を眺め、其中に銅色の蛇ありて常に尊貴の指を汚して、積み貯へたる、下等の金屬の中より生じ出でたるありと說きかせり、次にロデリックは、滿面に赤色を帶たる人を襲ひ、蒸溜樽の中より出でたる蛇は他よりも一層兇惡あるを示せり。其次には名高き法師に接し、其の神の感化よりは、寧ろ人の怒氣の現はるゝ神學爭論に係はり居るを知り

師は聖餐の杯より、蛇を呑み込み賜へるかト

試み問へるに

汚れたる狂妄者よト

神學者は一聲叫びしが、手は自ら止まりて胸の上にありけり。

早き頃より失望に陷り、世を退きて交際を避け、倘繰よ繰よと返らぬ昔の事を思ひ、心中常に怏々として樂まざる、衰へ果たる人ありけるが、ロデリックの言を信ずるとせば、其人の全心は蛇と化し、自ら苦しめて、遠からず鬪え死に死ぬべしといへり。ロデリックは倘、家內の風波の打ち絕えざる夫婦を見ては、互に噛み合ひ好きの蛇を畜へるとなし、己れの及び難き人の著作を惡し樣に言ひ做す、腹黑き著述者に逢ひては、其の蛇は最汚らはしけれど、幸にして刺なしといひ、放蕩無賴にて顏色の眞鍮の如く黃狀みたる人、來りて蛇の有無を問へば、其腹中に、昔しゴス人、ドン、ロドリゴーを苦しめたる者と、同種の蛇の住まへるを語れり、一人の麗はしき少女に逢ひ、其手を執りて、悲氣に顏を視詰め、其優しき心の內に死毒をもてる蛇ありと告げ語りけるが、其言果して當り、數ケ月の後、少女は戀煩にて死せりと言へり。交際社會の中にありて、些細の事にて拂り合ひ、競ひ爭ふ兩人の貴女を見ては、互に其心中に畜ひ置けは、數千の小蛇は遂には一匹の大蛇に等しき害毒を生ずるに至るべしと告げ聽かせり。

多數の中にもロデリックは、嫉妬深き人に戯ゝを以て得意となし其蛇は、青色にて、大なる全躰、氷の如く冷に、其刺の力は只一を除ては、最鋭しと語居る時、傍に立る人ありけるが

其一つとは何なるかト

問へり。其人の顔は、暗色を帶び、其眼は常に他を避けて地上にのみ向ひ、直に人の眼光に接せざると、既に十年餘、其人物については名譽を汚す、不思議なる評判あれど、誰れとても明かに其の何たるを語る者なく、只口制なき市中の男女の、聽くも恐ろしき事を噂せるのみ。其身は近頃迄海上にありて、ジヨージ、ヘルキメルのギリシヤ群島に航海中、奇ある出來事の起りし時、正しく其船長なりき。

如何なる心中の蛇ぞ最も鋭き刺を持てるト

彼の人は躊躇ひながら、色を青くして、再び問へるに

さる事は問はずもがな、能く己が胸中を探るべし。アラ余が蛇は動けるよ、兄蛇の近づけるを知りてなるべしト

他の秘事を讀み取るが如く、ロデリックは答へけり。後にて其處に居り合はせたる、他人の物語をきけば、其時明かにロデリツク、エリストンの腹中より吹噓の音聞え、其音に呼出だされてか、船長の腹にも、實に蛇の潛み居りたると見え又不思議なる音の出でたりといへり。眞實其事のありたりとせば、或はロデリツクが、物眞似の巧なるに、よりたるなるべし。

斯くロデリックは、己が蛇（實際かゝる者のありとせば）を以て他人の過失罪惡及び不穩なる良心の模範となし、其最も痛める處を覘ひて容赦なく刺を刺し、遂に市中一般の邪魔とはなりたれど、誰れ一人として避け或は拒ぐ者なく、ロデリツクに弱點を示めし出だされ、心ならずも之を承くるに至れり。人間生涯の大怪事といふべきは、人多くは其の悲しむべき汚點を掩ひ、些細なる外貌の事にて隱し埋め、互に交際を結ぶの秘術となすとなり。ロデリックの說にては、多數の小蛇か、或は之を之を喰ひ盡くせる一匹の大蛇なるか、人として多少の蛇を蓄はざる者なしとせり。去れば同情同感の者甚だ多かるべしといへども、あるべく災害を避け、平和を保たんと包み隱し置く、人の內郭を亂す、ロデリックを見ては、皆忍ぶと能はず、市中擧りて忌み嫌ひ、中にも分けて上流の人々は、今より後ロデリックが、公に己が腹中の蛇を現はし、行儀正しき他人の心の巣を探り、其友を呼出だし、古來より續き來れる世間の風紀を破ざらんとを望り。故に親族は癲狂室を設けて、彼を閉込め、其事の外に聞え知てより、人々は漸く安堵の思をなし手をもて胸を掩ずして、自由に市街を步行するに至れり。

●「流れの萍」は次號より再たび多く揭載せんとす。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

時事

○倦々

大ひなる理想なきものと、強き精神なきものとは、暫且にして倦む。倦々は、人物の薄弱なる證なり。左れば、其倦むを見て直ちに放擲し、俄かに之を失望せしむるは不可なり。苟くも先覺たるものは、能く之を啓發し、奬勵し、快導する所ろなくんばある可らず。

○天下昏睡

頭を擡げんとして亦伏し、精氣枯れて昏睡の狀あるは、今の形勢なり。政治上に於ては、國會に失望し、教育上に於ては、書生に驚歎し、殖産上に於ては、會社に恐惶し、社會改良の上に於ては、不容易なるに落膽せり。之を警醒鼓舞するは、先覺の重任にあらずや、先覺何處にある、旭日三竿の上にあり、先覺未だ覺めざるや何如に。

○野に呼ぶ板垣伯

吾人は、兎に角、板垣伯が、老ひて彌よ壯んなるに服し、老ひて彌よ多血なるに感ず。隱居多き東洋の孤島國、反つて白髮の老書生切りに慷慨悲憤し、他の青綠兒を打つて蹶立せしめざることを得ず。

○朝に踞す大隈伯

吾人は、伯が、豪快にして有爲なるに服す。今の政治家は大率ね云く、日本人民の運命は知らずと。伯は運命を論ずるほどの學者にあらず。たゞ斷信して、日本人、列國上に冠たることを得べしと定む、之を以て雄志勃々、他の、喪志哀々たるものの比ならず。日本の經濟にも失望せず、日本の軍備にも失望せず、日本の外交にも失望せず、日本の物産にも失望せず、啻に失望せざる耳ならず、極壯の望を有せり。何んぞ、大ひに叫びて斯民を鼓舞せざる。もし演説を事務的政治家の長所にあらずとせば、何んぞ奮つて快手截決せざる。

○大先生

一世に超出すること富岳の如く、雲霧流風に汚されざること亦富岳の如く、純潔にして高きこと亦富岳の如く、万人の仰望に適ひ、之が新思想の根源を發し、濁念漫々として地に匍匐するの土獸を靈化し、天の聖氣を下して常に之を洗ふ所ろの大先生果して何處より出んとする乎。あゝ吾等が濁れる思ひを清

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

くせよ、あゝ吾等が低き望みを高くせよ、あゝ吾等が薄き信を固くせよと叫ぶ所ろの聲、今や四方に聞ゆ。之に應じて、降る所ろの生命、道、眞理、果して何處にありや。

○短命

同胞が一生の壽命はよく短縮せり。其墓に入るの時の格外に早きのみならず、墓に入らざるの以前、すでに死せり、未だ死せざるの以前、すでに眠れり。壽命、此を以て極めて短かし。今や、十年の計畫を以て一事業を爲すものありや、否な、十年なきのみならず、三四年の經綸を以て之を忍ぶものありや、なし。あゝ、都下活務の日本人普通の壽命は、三年にだも及ばざる也。

○暑休

今や、多くの人、暑休すらん、暑休は大ひに養なつて、壯んに發するの滋養節なり。今に於て、閑雅靜平たるは、可なり、若し夫れ、秋風一たび拂ひ、第二回帝國議會開場曉鐘のひゞかん頃ほひは、天下の形勢、大ひに繁昌せんとを希圖す。人は、無事に倦き果てたり。否な々々、些少細々の小事件にのみ倦き果てたり。

女報

可愛子編

●皇后陛下の恩命　皇后陛下には、樞密院顧問官吉田清成子の病危篤なる趣き聞召され、殊の外宸襟を惱まさせ玉ひ、子爵夫人へ注意に注意を加へ看護怠らざる様致すべき旨、香川皇后宮太夫を以て傳へさせ玉ひたるに付き、太夫には昨夜同邸を訪ひ恩命の程を夫人へ傳へられたりと聞く。

●吉田子爵夫人と同令孃　吉田樞密院顧問官が病床に臥せしより同夫人並に令孃(本年十六歲)は一月餘の久しき一夜だに寢所に入りし事なく、日夜看護に怠りなく、殊に危篤に近きてより、非常の心配にて令孃の如きは竊に神佛に祈願を掛け、父君の平愈を祈り居りたり。

●故三條公の未亡人終身年金　我政府は第二期議會に於て、故三條内大臣の未亡人に對し、終身年金五千圓を下付する議案を提出するの筈なりと。

●北白川宮妃殿下　能久親王妃富子殿下は、曩に日光地方へ御旅行の處、七月廿七日歸京あらせられたり。

●李公使母堂の訃音　本邦駐剳淸國欽差大臣李經芳氏の母堂には、此程本國に於て逝去されたる由にて、同公使には目下忌服中なるが、若し賜暇を得れば或は歸國せらるべしと云へり。

●擧子平均數　博士ベルツ氏の調査によれば、日本及び歐州婦人の擧子平均數は日本婦人三、三、歐州婦人四、七、の比例なりと云ふ。

●美人を募らんとす　米國サクラメントに於て久しく料理店を營み居りし本邦人某は、此程歸朝して年齡十八歲位の妍き婦人四五名を米國へ連れ行かんと昨今頻りに搜索中なりと、多分一種云ふに忍びざる業を營まんが爲めなるべし、嗚呼是れ東京新報の記事、信ならば、大に憎むべき所業といふべし。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

●靜岡市立の病院にては此度看病婦一名を傭ひ、入院患者の看護監督をなし、又他家の聘にも應ぜしむ、同病院には産婆講習所の附屬設置あり。

●濵松婦人協會　は遠江國敷知郡濵松町内に設けられたり、發起者は松塚しん子矢部かく子、佐藤しげ子、小田やす子、四氏にして、同會の婦女は、溫和柔順、淑如の美德を養成するを以て目的とし、なほ慈悲篤志を以て教育の普及を謀るにありといふ、而して同會の事務は第一着として、學校定時間に教育を受くるを能はざる事情ある初學期の生徒を教授すること、貧困にして學資を辨じ能はざる初學期の兒童(六歲以上十五歲以下)を教授することをなさんとす。

●近江婦人慈善會　同婦人慈善會は本月九日頃、大津寺内南町本願寺別院に於て故會長中井竹子の一周年忌の法會を執行し併せて新會長大越花子の披露をなす趣き。

●婦人の佛教團躰を組織せんとす　京都上京高倉通御池上る安原はつ子發起となり、小學女教員以下女生徒中の有志を聯合して、婦人佛教團躰を組織せんとて奔走中なり、其主意は高僧を聘して、經典の講義を聽き、道德心を涵養するにありといふ。

●保育會　京都市内保姆及保育助手の組織なる同會は、每月其保育事務の相談と保育法研究とを成し居れり、同會は數年前より立ちて當時會員八十名許ありとぞ。

●保育法講習會　右會の催にて當時比叡山に避暑中なる神戸在留幼稚園教師ハウ女師、及び兼て米國に幼稚保育法を學びし甲賀ふじ子を聘し、七月廿七日より八月一日まで一週間、每日午前八時より十一時まで、上京區竹間幼兒保育場に於て保育講習會を開けり、科目は恩物の性質及使用法遊戲、唱歌等凡ての保育法にして、全市保姆及見習生、教師等九十名ばかり集りしと云ふ。

●女宗匠再び京都に遊ぶ　東京の歌人松の門三艸子宗匠は、去六月中旬京都に來り、名地勝區を遊覽中、播州地方の門流より迎へられ、同地方を漫遊せしが、祇園祭見物の爲め再び京都へ來り、寺町御池下る富春亭に滯在中なり、尚ほ暫く滯京して諸方歌會の躰裁をも一覽する積りなりと。

●教員免許撿定　明治二十四年高等女學校教員免許驗定の儀は、九月廿五日より執行するに付、豫て出願の者は同月十七日より十九日迄の間に、文部省へ出頭すべき都合なりと。

●スミス孃の歸國　アイダ、ヴイクトリヤ、スミス孃は、米國ニユー、ヘブン看病婦學校の卒業生にして、二三年前我國に來り、新潟の北越學館に英語を教授し去年秋より京都同志社看病婦學校に來り、其主任教授として此一學年を送られたるが、此度止むを得ざる事故に迫られ、去月十六日橫濵より出發、歸國の途に就かれたり、孃は日本品を好み、日本食を嗜み、日本人を兄弟姉妹の如く感じたるが故に、別れに臨んで一同に惜まざるはなく、生徒等は覺へず落淚するに至りたりと。

●伏見産婆養成所　は實地と理論とを併せて教授し、教員は醫師數名、生徒は十八年以上の躰壯行正なる婦人とし、正則生は修學期限一年とし、講習生は六ヶ月とす、授業日は一ヶ月一六の六回とし午後六時より開く、當時生徒講習生は多くは老婆にして、正則生は妙齡の婦人なり、其教授法は未だ充分ならずと雖も、追々に改良するならん。

●梅花女學校の婦人教育會　七月二十一日大坂梅花女學校にては婦人教育會の例會を開き、大阪府尋常師範學校女子部教師小川はま子女史の家庭教育に於ける談話あり、倘幻燈を使用し教育上の實例を示して會衆の注意を促がしたるなど、隨分有益の集會にてありしと。

●神戸に於ける夏期學校　南美以美教派の宣教師が、每年開ける神戸の夏期學校は、本年も七月十五日より二十二日まで開かれたり、大阪一致女學校のマクガイヤー孃も、臨みて演說せられたり。

●宮城縣産婆講習會修業證書授與式　は七月三十日、宮城郡原町小學校に於て擧行せられたり、卒業者は、荒川なみ子、伊藤よれ子、兵頭ゑん子、川藤けさ子四氏。

●貧民救助慈善音樂會　は八月四日仙臺市仙臺座にて開く。

●廢娼演說會　は仙臺市岩沼町に於て開かれんとす。

●娼妓相共に金子せん子氏を呪ふ　山梨英和女學校教師金子せん子氏が熱心に廢娼に盡力するより、同縣甲府新柳町の娼妓等は、樓主と共に甚だ之を惡み、各樓悉く金子氏の肖像を作り、娼妓交々之に釘うち、或は針など刺して、一心に呪ふとは、笑止にも憐れなり、因に云ふ、金子氏は今ま暑を箱根に避けて、蘆の湖畔に心身を養へり。

●村雲日榮尼公　は七月二十六日より三日間秋田縣秋田市秋田倶樂部にて說教あり、參聽者は日々數千の多きに上りしといふ。

●スタルジス女學校　長崎大浦の同校は、先般齋藤實則氏を校長に撰び、校名を梅香崎女學校と改稱し、規則學則を改正せり、同校は設立以來日淺しと雖も、生徒日下三十餘名あり、なほ當秋より增加の摸樣あり、今年始めて二名の和漢學科卒業生を出す。

●北海道にての奉公人　男雇人は夏向き一ヶ月三圓冬向き一圓餘、下女は夏向き一圓五十錢乃至二圓已上、冬向きは一圓已下なりと云ふ。

●北海道にての雇農夫　若し畑にても耕す時、男農夫を雇へば一日三四十錢にして、女農夫は十八錢より十五錢の間にても雇ひ得らるゝ事あり、但し冬向きは、農男二十五錢、農女は十錢にても耐へ務むる者ありと云ふ。

●和蘭攝政幼帝の臨幸　和蘭國攝政皇太后及幼帝の兩陛下は、去る五月廿六日始めて同國の首府なるアムステルダム府へ臨幸あらせられ、廿九日海牙府へ還御三十日ロツテルダム府へ行幸在せらる、同府にては、此廿五年來皇帝臨幸なかりしを以て府民の歡喜特に甚だしかりき、同日ホク、フアン、ホルランドと稱する處より御乘船あらせられ、午後五時ヘツト、ローの離宮に還御あらせられたりと云ふ。

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

●日本全國卒業女學生人名人數一覽（學校創立より本年四月に至る）第八

●地方の部（二）

●京都同志社女學校　高田道子　林外涙子　岡嶋鼎子　藤井榮子　三輪榮子　高松新子　土田常子　川邊外居　上原友子　中嶋春野　末吉牧子　辻勢武子　杉田以素子　西村幾久子　小林初子　田中以津子　三輪石子　山本久枝　松尾志氣子　廣瀨恒子　竹内梅子　加藤德子　横田益子　土倉政子（合廿四名）

●京都府尋常師範學校女子部　平野のち子　澤崎さゐ子　寺尾ちつえ　恒川緒枝　秋田こう子　福井なか子　小西久江　薗きし枝　橋詰ひろ子　千賀さみ子　河合なつ子　天岡りやう子　吉田さわ子　原井すゝえ　淺井たれ子　板倉かす子　若山らく子　宮澤てつ子　藤田たけ子　田口みさ子　福田せつ子　高橋みえ子　木戸きよ子　山口はる子　松田ふさ子　鹽澤こま子　森田さみ子　風見てい子　のぢ井村尾　鈴木しう子　前川よし子　山根はな子　小嶋瀧枝　栗山らく子　千村七五三　内藤きぬ子

●大阪梅花女學校　山口てる子　村田よし子　北住はる子　安田さい子　杉田しん子　伊東てつ子　江頭ひで子　鈴木かれ子　杉江田鶴　橋平よれ子　前神松枝　上代よし子　立石つれ子　ハンナ、ギユリキ　松田きた子　荒木やす子　好本ちゑ子　立石ひさ子　矢上うた子　長嶋みす子　大塚きな子　鎌原政子（合二十二名）。

●市立大阪高等女學校　高橋辰尾　松本よれ子　熊本稚子　西さめ子　三野たか子　眞部玉江　横関みれ子　越智はな子　岡本千代子　中嶋茂千代　籔内はる子　西脇ます子　高橋たき子　須崎たつ子　小出さよ子　大原もさへ　安岡きく子　板倉たれ子　泉原たま子　板倉せい子　大串のぶ子　高橋つれ子　兼子織部　岩崎せい子　水野ゑみ子　戸田たか子　萩谷清江　山崎みわ子　野田こう子　酒井きやう子　加集わか子　橋本孝子　木下いし子　印部この子　目くめ子　佐々木京子　阪本しか子　近藤菊枝　近藤千代子、丹戸こも子　平井ます子　佐々木ゆき子　村嶋きみ子　木村こい子　江澤、楠岡たゞ子　佐治はな子　横関じう子　合四十八名）。

●三重縣三重私立女學校　長田たづ子　田宮きくえ　靜間しづ子　東まさ子　能勢きよ子　西尾しかを　岡山もさ子　藤嶋かれへ　柳本きよ子　森たきの（以上本科卒業）（合十名）。

矢守ひさ子　藤堂はる子（以上撰科卒業）（合二名）。

（總計十二名）

品名	八月六日
白米（一円ニ付）	
一等米	一斗〇升二合
二等米	一〇四
三等米	一〇八
四等米	一一三
五等米	一一八
正米（一円ニ付）	
越中米	一斗五升〇合
越後米	一四五
美濃米	一四〇
尾張米	一四二
一志米	一三八
雜穀（一円ニ付）	
本貫大麥	三斗五升五合
上州小麥	二〇五
竹林麥	二一五
梅澤大豆	二〇五
青柳大豆	一九五
吟小豆	一五六
黑胡麻	一四八
白胡麻	一二七
塩（一円ニ付）	
赤穂	二俵七五
大搨	二八〇
本齋	四六五
新齋	五一五
醬油（一円ニ付） 最上　極上　上物　中物　並物	七分九厘　八五　九〇　一一五　一三〇　一六五　一八〇　二〇〇　二二〇　二五〇
味噌（一円ニ付）	
地製上白	六、八〇〇貫
同上赤	六、〇〇〇
同紅赤	四、三〇〇

品名	八月六日
眞綿（一個ニ付）	
上々入金	一二二、〇〇円
上入金	一一八、〇〇
並入金	一一三、〇〇
白木綿（一円ニ付）	
玉鶴	三五〇反
綾鶴	三八〇
日ノ出鶴	四一〇
若柳	三一二
稻岡	三四七
蓬萊	三九三
改メ	三五〇
毛糸（一百斤ニ付）	
鶴判	九八、〇〇円
同染分	九六、〇〇
同中細	一一七、〇〇
同極細	一一七、〇〇
極上スコッチ	一二五、〇〇
靴下用極上	一一三、〇〇
繰綿（一円ニ付）	
新坂上銘大入	七八五目
新京丹大入	八一〇
新坂丹大入	八二〇
新三上銘大入	八二五
新尾上銘大入	八三〇
新三文庫入	八八五
夏織物（一反ニ付） 都華織　壁上布　明石縮　加茂川縮　平上布並數奇屋　濱縮緬夏友仙　絽夏御召上等　同並	五、一〇円　七、二〇　四、二〇　六、〇〇　四、九〇　六、七〇　四、七〇　六、二〇　三、七〇　五、七〇　六、四〇　九、四〇　三、五〇　六、七〇　八、七〇　九、七〇　六、二〇　七、七〇

品名	八月六日
製茶（一貫目ニ付）	
山城江州稀大頭	二、七〇円
同稀頭	二、三五
同大頭	二、〇〇
同中頭	一、六五
同中茶	一、二〇
狹山稀大頭	二、〇〇
同稀頭	一、七五
同大頭	一、三〇
同中頭	一、一五
同中茶	九五
乾海苔（一百枚ニ付） 洲崎　大森　深川砂村　大師潮田　上總	円 一、 一、 一、 七二八三〇三〇三〇七 〇五〇五〇五〇五〇〇
鰹節（十貫目ニ付）	
薩摩大	一六、〇〇円
伊豆上	一九、〇〇
城の腰上	一七、五〇
銚子上	一二、五〇
南部仙台大	九、〇〇
土佐大	一〇、〇〇
水油（一樽ニ付）	
地水	六、三〇円
胡麻	一〇、二〇
荏油	一〇、二〇
桐油	六、六〇
綿油	七、五〇
坂水	七、四二
石油（一箱ニ付）	
チヤスター	一、六四円
デボース	一、六三
ホーキ	一、六七
ロシヤ	一、六二

女學生

第十五號には、暑中休暇前の奮發に成りたる八校の女秀才が腕くらべの文を載す**附錄**には銅版富士山の圖を入れ、天知子、可愛子が簡潔明快なる紀行を掲ぐ。

每月一回發兊●一冊郵税共六錢

女學生
悲哀胸を打つ…………………

まとひの筵
偶感數番……………………暗光子
英雄の眞面目(偶感二)……川合信水
學友よりの手簡……………山月子
都下の夏遊び………………如是子
樂情…………………………野雄

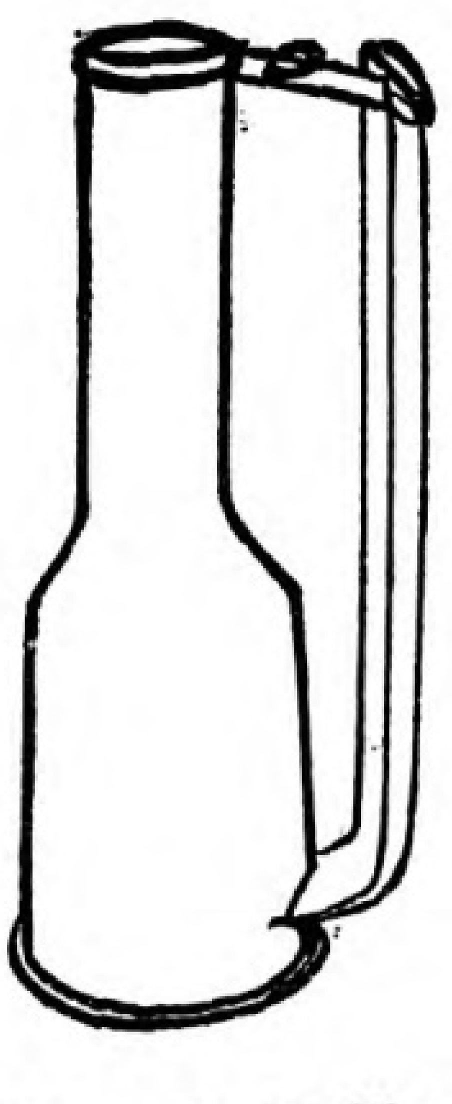
睦びの家
春夜書感……(明治女學校)……鈴木げん子
婦女子の職務……(女子學院)……瀧口みか子
古烈女の傳を讀む……(女子神學校)……森田千子
普通學の必要(下卷)……(頌榮女學校)……德澤くす子
竹に對するの感……(女子神學校)……山田いく子
春日山に遊ぶ……(越後高田女學校)……赤井さいら子
女子獨立學校閉校式祝歌……(女子獨立學校)……加藤さし子
卒業式の感……(立教女學校)……伊藤さよ子
水邊納凉……(東洋英和女學校)……飯塚しづ子
校を閉づる時……(女子獨立學校)……矢田たき子

附錄
富士登山の仙話(富士山の圖入)……天愛子

女學生全盟各女學校は左の如し
○明治女學校○女子學院○新榮女學校○女子神學校○共立女學校○フェリス和英女學校○頌榮女學校○跡見女學校○立教女學校○成立舍女子部○女子獨立學校○海岸女學校○長榮女塾○東洋英和女學校○靑山英和女學校○金城女學校○高田女學校

新發明品 **手桶湯わかしの廣告**（專賣特許願中）

一家の經濟は細かき所ろに用心して、些細の事を大切にするにあり、古しへより儉約せずして家の富みたる例し曾て有らず。扨て、其の儉約を爲さんには、家の內の用事を成べく簡畧にして、無用の手を省き、無用の費を惜しむにあり。儉約は、富を生ずるのみならず、勉强を生じ、人々心はげみて皆々面白くあり、一家相樂しみて春風の心地よきが如くなるものなり。一家の經濟に心を着くるは、家を富まし、家を樂しくし、家を樂園の如きホームと爲するものあり。



此主意を以て、吾社はホームを美しくすると樣々心を碎き多年、文筆敎育の上よりして之を試ろみたれど、亦以て一家內の實際の改良を促がすとの大切なるを感じ、先づ家具を簡便にして、細君の勞を省き、台所元の入用を少くするの法方を工夫せんとす。扨て第一に工夫したるは、手桶湯わかしなり。此は手桶の中に湯わかしを入れ、僅かの炭火にて二十分間に之を熱湯にわかすの法とす。器具は至つて簡便なるものにて圖に示すが如し。手桶にても、水がめにても、盥にても、風呂にても皆な用ゆべけれど、夏向き行水などに使はんに、手桶に投げ込み置き、二十分にて沸きたるを一杯用ひ、更に第二の手桶に投げ入れて、又の二十分間に更に熱湯を得ば、至極重寶ならんと思ひ付き、假りに「手桶湯わかし」と名づく。目下專賣特許願中ゆへ、遠からず免許あるべし、左れど時節がら一日も早く入用の品と思ひ、八月一日より賣出すべし。代價は銅製にて一個一圓五十錢とす。更らに追々工夫して廉價にて出來上るやうにすべし。

八月一日

東京麴町區下六番町六番地 **女學雜誌社家具部**

●色を白くするさぼんの元祖

れる三能さぼんは

藥劑士大鐘立岱氏と製造人西條重兵衛氏と多年の實驗により主として男女全體の色を白くしにきびそばかす皮膚病及び諸傳染病の消毒に大効ある藥劑を配伍し調製したる物なり昨明治二十三年十月を以て弊店の發賣する所となり爾來日尚淺きも其効能の著しき事實に三能の名に背かざると愛顧諸彦の高庇により世に高評を蒙り弊店の幸福之れに過ぎず然るに三能さぼんの日に月に益々盛大なるを慕ひ幾多の破廉恥商等種々まぎらはしき色を白くする○○さぼん或は何さぼん又は何と一雨毎に現出し何れも外見よく何分かの香氣を含み一す素人好きのすさぽんなり然るに實際功顯わるゝ三能さぽんは返て容形あしく御便用中何となくざらつく氣みあれども是れ即ち藥力の致す處にして功能を主としたる證據なり三能さぼんは決して香氣や形容を主としたる○○さぼんの類にあらず又尋常化粧石鹼と異なるものなり今回從前の商標即ち茲に掲げたる洋裝婦人の圖を以て公然商標とし農商務省登錄御許可相成候に付御愛求の諸君篤と右商標御覽の上他の形容さぼんに惑はされず愈御愛顧あらん事を江湖諸君に希ふ◉定價一個十錢郵稅二錢郵券代用不苦候但二錢切手に限る右品各府縣下賣藥店又は和洋小間物店に取次販賣所御座候間御最寄にて御購求奉希候也

銀座一丁目

發賣本舖 つやぶきん本店 佐々木玄兵衛

正札掛値なし

新形 流行

○はおり紐 品々
○帯留類 品々
○時計紐 品々
○メリヤス 品々

右ノ外組糸一切御好ニ應ジ精製仕○御進物等ニ美麗ニ調進仕候

組糸老舗

○御用ノ節ハ御報知次第參館仕候

日本橋區よし町

佐竹勝兵衛

私立明治女學校生徒募集廣告

私立 明治女學校 生徒募集廣告

小學尋常科卒業の人は無試驗にて最下級即ち豫科第一年級に入ることを得。

豫科を三年とし高等小學科の教授を悉くす。吉田のぶ子其科長たり、巖本善治氏之を監理す。

豫科了りて後ち本科を三年とす、賢妻良母を養成することを主旨とし、家政女藝及び女學を悉とく教授す。

● 右九月十日後各級に入學を許す、規則書需用の人は郵劵封入申越あれ。

東京下六番町 明治女學校

横濱山手百七十八番 フェリス和英女學校

本校各學科生ニ缺員アリ且今般教師ヲ增シ校則科目等ヲ改正セリ入學志願ノ方ハ至急申込アレ入學試驗九月三日四日五日

但規則書入用ノ方ハ郵劵二錢御封送アラバ直チニ進呈スベシ

明治二十四年七月

共立女學校生徒募集

開校以來二十年一日ノ如ク教務ニ鞅掌セシピヤソン氏今般其任ヲ解キ專ラ福音宣傳ニ從事スルニヨリ多年北米師範學校ニ教授トシテ經驗ニ富メルブルックハート氏來着代リテ教頭ノ任ニ當リ大ニ學則ヲ改正シ新ニ奔ラズ古ニ泥マズ日本女子ニ適切ナル高等普通ノ和漢英諸學及裁縫圖畫音樂凡テ必要ノ學科ヲ教授ス寄宿通學ヲ論ゼズ入校志願ノ令孃貴婦ハ速ニ申込アレ規則書入用ノ方ハ二錢ノ郵劵ヲ投ゼラレヨ九月十日開校

明治二十四年七月

横濱石川山二百十二番 共立女學校

同志社女學校生徒募集

來ル九月十四日始業入學志願ノ方ハ同日迄ニ申込アルベシ規則書ハ郵劵二錢ニテ送付ス

京都市今出川 同志社女學校

女生徒募集公告

速成科六ヶ月ノ卒業、本科ハ二ヶ年ノ卒業、學力ニ依リ相當ノ級ニ入ル、本科ハ今般廿五名ノ卒業生ヲ出ス、此際規則ヲ改正シ一層親切ニ教授ス寄宿生拾名、通學生五拾名、入學ヲ許ス、規則入用ノ貴女ハ二錢ノ切手送ラバ速ニ呈ス

東京市本郷區東竹町二十五番地 和洋裁縫傳習所

採集法

むし類の石類　木葉類

右は星野愼之輔君が農科大學に於て實地研究より得たる簡便の採り方なり歸省の人、漫遊の人、庭園に遊ぶの人此一冊を携えて夏期の暇に實地觀察の學問を怠る勿れ

賣價十錢　郵便切手一割增し　郵送賃二錢

女學雜誌社出版部

廣告定價

一行（廿七字詰）一回　前金拾錢
同　三回以上　一割引
同　六回以上　二割引

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絕す慈善上の事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を揭ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を載する每に右雜誌十部の注文を要し以上半頁分每に十部增の割合と定む

雜誌定價

一冊。	六錢	郵稅。	五厘（但府內無郵稅）
十冊。	五拾八錢	郵稅。	五錢（同前）
半年分	壹圓四拾三錢	府外は	壹圓五拾六錢
一年分	貳圓六拾錢	府外は	貳圓八拾六錢

發行所　東京市麴町區下六番町六番地　女學雜誌社

編輯兼發行人　巖本善治

印刷人　堀口庄三

水哉 坪谷善四郎君著

閨秀錦囊 日本女禮式

一名 婦人一大重寶鑑

松本楓湖。尾形月耕 佐竹永湖 三氏密畫

製本既成

全一册和裝帙入

紙數六百頁以上

密畫百餘個挿入

正價金五十錢 郵稅十二錢

着金即日送本

本書目次

●總論 人間に禮節の大切なること●婚姻 日本の婚姻式○婚姻の大意○婚姻前の心得附嫁入前に訓ゆべきとがら○婚姻の儀式○婚姻の儀式濟て後の心得○婚姻儀式のかざりもの心得○西洋の婚姻禮式婚姻前の心得○婚姻の儀式○婚姻後の心得●支那の婚姻禮式婚姻前の心得○婚姻の儀式○婚姻後の心得●出產 姙娠中の心得附姙娠中の養生法●出產の心得●產後の心得●子を育つる心得附兒守りへの申渡●教育●奉仕 夫に事へる心得●家族に對する心得○舅姑に對する心得並姑たるの心得○夫の兄弟姉妹に對する心得○繼母と繼子との心得○家族及親族の關係のと附忌服のと○親族へ對する心得○主人に對する心得●交際 起居動作の心得●給仕の心得●日本料理饗應の禮式○主客訪問の心得○饗應の禮式○食事の心得●西洋料理宴會の禮式○主人の心得○客の心得○食事の心得○身じまひの心得○化粧のと○髮の風のこと●諸藝 詞づかひの心得●作文のしほり○手習のと○文に用ゆべき詞の心得○文の書き樣附作例○色紙短册書き方並假名遣の心得●和歌の心得●茶道の嗜み○茶の道具並に灰のと○風爐先手前のと○風爐點茶平手前のと爐炭手前のと○爐點茶平手前のと●濃茶會のと○炭手前のと○四疊半濃茶の節の心得●插花の心得○あらゆる插花の心得○種々なる花のいけかた●香道の嗜み香のきゝ樣○十炷香のと○香道具のと香の製しかた●經濟 衣服裁縫洗濯染め樣の心得地合を選むと○衣服たちぬひのと○衣服洗濯のと○染物の心得●飲食料理獻立の心得客式の料理心得略式客まかなひの料理常式料理獻立一般料理の心得○勝手道具取扱心得○住居の心得●奉公人を使ふ心得●病人あつかひの心得○進物贈答の心得●金錢出納並貯蓄のと○貯蓄のと○儉約のと○貯金及び保險のしかた○驛遞局貯金の心得○火炎保險の心得○生命保險の心得●龍頭 女今川女子訓。女小學。女大學。恩蒙いさめ草。婦人六德和解。女五常訓。米國婦人の心得草。やまと言語心得草。女孝經。介婦のいましめ。以上

發兌元 東京日本橋區本石町三丁目 博文館

大賣捌 東京堂東海堂上田屋大倉孫兵衛水野慶次郎小林喜右衛門石塚文海堂春陽堂

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

製本既成

閨秀錦嚢 日本女禮式

一名 婦人一大重寶鑑

松本楓湖。尾形月耕。佐竹永湖 三氏密畫

全一册和裝帙入
紙數六百頁以上
密畫百餘個挿入
正價金五十錢 郵税十二錢

本書目次

●總論 人間に禮節の大切なること ●婚姻 日本の婚姻式○婚姻の大意○婚姻前の心得附嫁入前に訓ゆべきとがら○婚姻の儀式○婚姻の儀式濟て後の心得○婚姻儀式のかざりもの心得○西洋の婚姻禮式婚姻前の心得○婚姻の儀式○婚姻後の心得●支那の婚姻禮式婚姻前の心得○婚姻の儀式○婚姻後の心得 ●出産 姙娠中の心得附姙娠中の養生法●出産の心得●産後の心得●子を育つる心得附見守りへの申渡 ●教育 ●奉仕 夫に事へる心得●家族に對する心得○舅姑に對する心得並姑たるの心得○夫の兄弟姉妹に對する心得○繼母と繼子との心得○家族及親族の關係のと附忌服のと○親族へ對する心得○主人に對する心得 ●交際 起居動作の心得●給仕の心得●日本料理饗應の禮式○主客訪問の心得○饗應の禮式○食事の心得●西洋料理宴會の禮式○主人の心得○客の心得○食事の心得○身じまひの心得○化粧のと○髮の風のこと ●諸藝 詞づかひの心得●作文のしほり○手習のと○文に用ゆべき詞の心得○文の書き樣附作例○色紙短冊書き方並假名遣の心得●和歌の心得●茶道の嗜み○茶の道具並に灰のと○風爐先手前のと○風爐點茶平手前のと○爐炭手前のと○爐點茶平手前のと●濃茶會のと○炭手前のと○四疊半濃茶の節の心得●插花の心得○あらゆる插花の心得○種々なる花のいけかた●香道の嗜み香のきゝ樣○十炷香のと○香道具のと香の製しかた ●經濟 衣服裁縫洗濯染め樣の心得地合を選むと○衣服たちぬひのと○衣服洗濯のと○染物の心得●飲食料理獻立の心得客式の料理心得略式客まかなひの料理常式料理獻立一般料理の心得○勝手道具取扱心得○住居の心得●奉公人を使ふ心得●病人あつかひの心得○進物贈答の心得●金錢出納並貯蓄のと○貯蓄のと○儉約のと○貯金及び保險のしかた○驛遞局貯金の心得○火災保險の心得○生命保險の心得 ●龍頭 女今川女子訓。女小學。女大學。思案いさめ草。婦人六德和解。女五常訓。米國婦人の心得草。やまと言語心得草。女孝經。介婦のいましめ。以上

發兌元 東京日本橋區本石町三丁目 博文館

大賣捌 東京堂東海堂上田屋大倉孫兵衛水野慶次郎小林喜右衛門石塚文海堂春陽堂